

令和5年度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっばんしゃだんほうじん きょうとうがくはやしかたどうめいかい 一般社団法人 京都能楽囃子方同明会	団体ウェブサイトURL https://noh-doumeikai.com
代表者職・氏名	理事長・河村 大	
制作団体所在地	〒 616-8372 最寄り駅(バス停) JR嵯峨嵐山駅 京都市右京区嵯峨天龍寺広道町10-10 前川方	
電話番号	075-600-2259	
ふりがな 公演団体名	いっばんしゃだんほうじん きょうとうがくはやしかたどうめいかい 一般社団法人 京都能楽囃子方同明会	団体ウェブサイトURL https://noh-doumeikai.com
代表者職・氏名	理事長・河村 大	
公演団体所在地	〒 616-8372 最寄り駅(バス停) JR嵯峨嵐山駅 京都市右京区嵯峨天龍寺広道町10-10 前川方	
制作団体 設立年月	1918年12月	
制作団体組織	役員 理事長 河村 大 理事 左鴻泰弘、吉阪一郎、成田有 辞、前川光範 監事 西村保美	団体構成員及び加入条件等 京都を主な活動地域とする女人能楽師囃子方 22名
事務体制 (専任担当の有無)	他の事業と兼任の事務担 当者を置く	本事業担当者名 谷口正壽
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名 成田有辞

<p>制作団体沿革</p>	<p>大正7年、在京都の能楽囃子方が集まり「同盟会」を立ち上げました。戦中戦後の混乱期に一時自然解散しましたが、昭和30年「同和会」として再出発しました。以後、毎年1回囃子方ならではの公演に取り組み、昭和61年に、名称を「同明会」に改めました。平成15年より8年間、能楽囃子の音楽性にスポットを当てた、「囃子堂」公演にも取り組み、「同明会能」とあわせて毎年2回の公演を行ってきました。平成24年10月に一般社団法人京都能楽囃子方同明会として法人を設立。25年度よりワークショップを中心とした学校公演や、子ども達だけで実演する、こども能楽囃子教室など次世代に能楽の魅力を伝える活動を展開しています。</p>			
<p>学校等における公演実績</p>	<p>令和2年度 「学校・アート・出会いプロジェクト 体験！能楽囃子の世界」6公演 令和3年度 「学校・アート・出会いプロジェクト 体験！能楽囃子の世界」2公演 令和4年度 「こども能楽囃子教室」2公演</p>			
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>平成25年度 大阪府立刀根山支援学校(他事業) 平成26年度 三重県立特別支援学校北勢きらら学園、県立奈良西養護学校 平成27年度 青森県立若葉養護学校 平成28年度 長崎県立虹の原特別支援学校 平成30年度 福島県立相馬支援学校 令和3年度 熊本県立松橋西支援学校</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/NHNLlaUi-es</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 一般社団法人 京都能楽囃子方同盟会 】

対象	小学生(低学年)	○	
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	能囃子「獅子」と狂言「附子」 ～この国のクラシックを鑑賞しよう～		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>能囃子「獅子」 作者…不明 狂言「附子」 作者…不明</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 始まりの挨拶 2. 囃子ってなあに 3. 能囃子「早笛」を聴こう 4. カケ声って不思議 5. 能囃子「獅子」を聴こう <p>休憩</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 「三番三」共演 7. 狂言ってなあに？ 8. 狂言「附子」をみよう 9. 質問・感想のコーナー 10. 終わりの挨拶 <p style="text-align: right;">公演時間 95 分</p>		
著作権、上演権利等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況
演目概要	<p>日本のクラシック音楽「能囃子」と世界に誇る喜劇「狂言」を体験し、鑑賞する公演です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 始まりの挨拶と能楽の歴史の紹介 …居住まいを正し、きちんと挨拶をしたあと、能楽の概要や歴史をわかりやすく説明します。 2. 囃子ってなあに…各楽器の説明をして、能囃子の音楽としての魅力を解説します。 3. 能囃子「早笛」を聴こう…龍神や鬼が登場する際に演奏される軽快で、ハイテンポな登場の音楽です。 4. カケ声の不思議…能楽囃子の特徴であるカケ声を体験して頂きます。カケ声を実際にかけて事で間のとり方がどんな風になるのかを体験します。 5. 能囃子「獅子」を聴こう…文殊菩薩の霊獣獅子の舞曲です。静と動・間合のやりとり・気迫が充実した曲で、日本のクラシック音楽“能囃子”の真髄と言える曲です。 <p>休憩 希望者は楽器を体験できます。(ふれあいタイム)</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 三番三共演…翁に付随する狂言の舞曲です。大変めでたい曲で、児童・生徒達は舞を舞い、小鼓と大鼓を演奏します。 7. 狂言ってなあに？…狂言の喜劇性について解説して、児童生徒達は狂言の「笑ひ」を体験します。「附子」について解説します。 8. 狂言「附子」をみよう…主人は外出するにあたり、二人の召使いに附子を預けて、「これは吹く風に触れるだけでも死んでしまうほどの猛毒だから、注意しながら留守番をするように」と云い付け出掛けます。残された召使いは中身が気になり、恐る恐る近づいてみると、毒ではなく飴であることに気づいて全て平らげてしまいます。このままでは主人に叱られると思い、わざと主人が大切にしていた掛け軸と茶碗を割って、申し訳なく思い自害しようと附子を食べたと釈明しようと企みます。やがて主人が帰ってくると、散々な有様を見て問い詰めますが、召使い達の嘘に気づくと、召使い達は「許させられない」と逃げだし、主人は「やるまいぞ！」と追いかけてゆくのでした。 9. 質問・感想のコーナー…感想を聞き、様々な疑問にお答えします。 10. 最後に始まりと同じく、居住まいを正して、きちんと挨拶をします。 		
演目選択理由	<p>能楽は、演劇・舞踊・音楽・文学・美術など様々な要素が入った、総合芸術です。この公演は能楽の音楽である、囃子にスポットを当て、独自の音楽性を紹介します。</p> <p>内容は、大人が聞いても十分に満足のいく芸術性の高い曲ばかりで、退屈しないようテンポの速く軽快な「早笛」、ゆったりと重厚な「大ベシ」、舞曲の原点と言える「神楽」、気迫が充実した「獅子」などを織り交ぜ、能楽囃子の魅力をわかりやすく伝えられるように選曲しました。</p> <p>児童生徒との共演曲「三番三」は同じリズムの繰り返しなので児童生徒でも演奏しやすいことから選びました。</p> <p>この公演は、特に能楽囃子の魅力が感じられる演目ばかりです。とすれば難解と言われる能楽でも、音楽である囃子ならば理解と言うものを必要とせず、純粹に見て聞いて面白いと感じて頂きます。</p> <p>能楽囃子は、わずか4人で30人のオーケストラに匹敵するといわれます。その力の源は「気迫」にあります。「気迫」とは、見える物ではなく、聞こえる物でもなく、感じるものです。この、目には見えない、耳には聞こえない「何か」を感じること、現代日本人が忘れてしまった五感以外の感覚を呼び覚まし、子ども達の感性を育みたいと思います。</p> <p>能楽の「魅力」「迫力」を存分に伝え、西洋の「ド・レ・ミ」(絶対の音楽)とは全く違う、日本独自の能楽(相対の音楽)の素晴らしさが伝わる公演にしたいと思います。</p>		

児童・生徒の共演、 参加又は体験の形態	児童生徒共演のコーナーでは、児童生徒達は、ワークショップで体験した「三番三」の舞を舞い、小鼓と大鼓を打ちます。事前に選抜した舞2名、小鼓、大鼓各3名×3組の計24名の児童生徒が、実際に舞を舞い、楽器を持ち演奏します。この時、出演能楽師の舞と笛、小鼓、大鼓が加わります。選ばれなかった児童生徒達も手拍子や鈴で参加し、会場全体での共演となります。休憩中に、希望者は小鼓と大鼓の体験ができます。直にふれあうことで、児童生徒達と能楽師の距離を縮めたいと思います。																				
出演者	笛 杉市和、森田保美、左鴻泰弘、杉信太郎の内1名 小鼓 林吉兵衛、吉阪一郎、曾和鼓堂、古田知英、林大和、林大輝の内1名 大鼓 河村 大、石井景之、谷口正壽、井林久登、渡部諭、河村凜太郎の内1名 太鼓 前川光長、井上敬介、前川光範の内1名 案内人 谷口正壽、林大輝の内1名 狂言 茂山千五郎、茂山千三郎、茂山茂、茂山宗彦、茂山逸平、茂山千之丞、 島田洋海、井口竜也、山下守之、増田浩紀、鈴木実 茂山忠三郎、山口耕道、山本善之、岡村宏憲の内4名 (太字は重要無形文化財総合指定保持者) 計9名																				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">出演者:</td> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: right;">名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">スタッフ:</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: right;">名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合 計:</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: right;">名</td> </tr> </table>	出演者:	9	名	スタッフ:	1	名	合 計:	10	名	運搬	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">積載量:</td> <td style="text-align: center;">0.7</td> <td style="text-align: right;">t</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">車 長:</td> <td style="text-align: center;">4.8</td> <td style="text-align: right;">m</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">台 数:</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: right;">台</td> </tr> </table>	積載量:	0.7	t	車 長:	4.8	m	台 数:	1	台
出演者:	9	名																			
スタッフ:	1	名																			
合 計:	10	名																			
積載量:	0.7	t																			
車 長:	4.8	m																			
台 数:	1	台																			

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出
	9:00	9時00分～10時00分		10時45分-12時20分	10分	45分	13時15分
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。						
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月		
	20日	10日	9日	25日	20日		
	11月	12月	1月	計	136日		
	20日	16日	16日				
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。							
児童・生徒の 参加可能人数	本公演			共演人数目安	18人		
				鑑賞人数目安	800人		

1. 始まりの挨拶

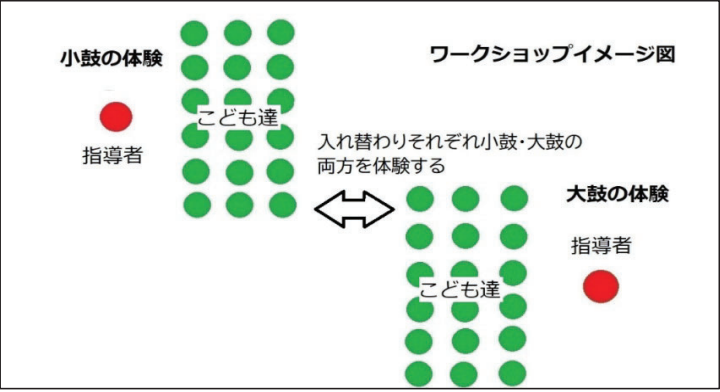


9. 獅子



公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出や
がわかる写真)

※採択決定後、採
択団体へ図面等詳
細の提出をお願い
します。

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	150名
<p style="text-align: center;">ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>公演当日に共演する「三番三」の舞、小鼓、大鼓を指導します。 能囃子と狂言という日頃見ることのない芸術を親しみやすく伝えるため、それぞれの専門家である、狂言方・小鼓方・大鼓方・笛方(全員能楽師)の計4名でワークショップをします。 能楽は日常の稽古が大切です。ワークショップ終了後に、小鼓、大鼓の構え方、打ち方の練習用に小鼓と大鼓のレプリカをお貸しします。それを使って繰り返し練習してもらいます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 始まりの挨拶…居住まいを正し、きちんと挨拶します。 2. 三番三ってなあに？…三番三を鑑賞し、舞の意味や構成や特徴をわかりやすく説明します。 3. 三番三を舞おう。…三番三の舞の指導をします。 <p>休憩 10分</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 小鼓ってどんな楽器？…小鼓の打楽器でありながら、一つの楽器で音色を変えられる、世界的に見ても類い希な構造や演奏法を紹介しします 5. 大鼓ってどんな楽器？…大鼓は小鼓とよく似ていますが、性質は全く正反対です。特徴と演奏法を紹介しします。 6. カケ声を掛けよう。…どうしてカケ声を掛けるのかを解説し、カケ声には何が大切なのかを解説し、みんなでカケ声を掛けます。 7. 三番三を打ってみよう。…公演当日に、共演する「三番三」の小鼓と大鼓を指導します。能楽囃子を聞いてみよう。…公演当日に共演する「三番三」を実演します。 8. 小鼓と大鼓を体験しよう。…児童生徒達に実際に、楽器に触れていただきます。 9. 質問感想コーナー…不思議に思ったこと、興味を持ったことなど、何でもお答えします。 10. 終わりの挨拶…始まりと同じく居住まいを正してきちんと挨拶をします。 <p>(95分)</p>		
<p style="text-align: center;">ワークショップの ねらい</p>	<p>本公演で共演する「三番三」の練習を主眼とします。 舞の体験では狂言の基本姿勢に始まり、鈴の振り方や足拍子の踏み方を学びます。 小鼓・大鼓の体験では、西洋を起源とする音楽との違い、「鼓」独特の演奏法を学びます。 西洋を起源とする文化に慣れ親しんだ、こども達や先生方にとって、能楽は、日常から縁遠い芸術かも知れません。ワークショップを通じて、能楽とは特別・特殊なものではなく、身近なものだと感じてもらいたいと思います。そして、ダンスや洋楽とは違う、日本の伝統的な価値観や姿勢・カケ声・間を知り、世界に誇る能楽の特徴を理解して、「肚を据えて、気を込める。」ことを体験することにより、日本人が元来持っている、芯の強さを身に付けて欲しいと思います。 能楽は礼に始まり、礼に終わります。挨拶は、コミュニケーションの第一歩です。姿勢を正し、心を添えて挨拶することで、相手への尊敬を表します。互いに尊敬し合うことで、自他の存在を認め、心を開き近づくことができるかも知って欲しいと思います。 能楽では、数百年前の楽器を当たり前に使っています。これは、楽器のことを「道具」と呼び、とても大切にしているからです。大事に使えばいつまでも使える。道具の大切さを伝えたいと思います。</p>		
<p style="text-align: center;">その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<p>三番三の舞の体験では、鈴を使用します。音楽に使うリングベルをご用意いただけると幸いです。無ければ当方にて用意いたします。 小鼓・大鼓の体験では、当方が用意した本物の道具(楽器)を使います。ほとんどのこども達は、大鼓や小鼓という伝統楽器に触れたことがないと思われますので、一人一人に持ち方から丁寧に指導します。 ワークショップ終了後は本公演に向けての練習していただきます。練習の際に使う、小鼓・大鼓のレプリカをそれぞれ3丁ずつと、練習用の動画を収録したDVDとテキストをお渡ししますので、動画を見ながら、繰り返し練習していただきます。</p> <div style="text-align: center;">  <p>ワークショップイメージ図</p> <p>小鼓の体験 指導者 子ども達</p> <p>入れ替わりそれぞれ小鼓・大鼓の両方を体験する</p> <p>大鼓の体験 子ども達 指導者</p> </div>		